



フルテック

プラグホルダー NCF Booster-Brace

SACDやハイレゾ登場以来の驚き
大谷俊英 (滋賀県)

試聴の環境

わが家で行ったNCF Booster-Braceの試聴をレポートします。

実は当選するとは思っておらず、某通販サイトで購入ボタンを押すかどうか悩んでいたところでした。本機が手元に届いたとき、酔って購入ボタンを押してしまったのかと焦りましたが、モニター当選とわかって大喜びです。

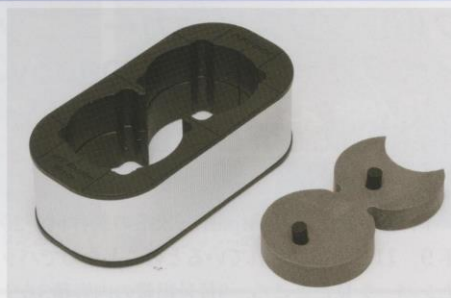
わが家のオーディオ環境は、ソースはハイレゾがメインで、PCがNECのExpress5800/54Xe、メインのUSB-DACがソニーUDA-1、CDプレーヤーがパイオニアPD-HS7、SACDプレーヤーがマランツDV-9500です。

CSEのゼロクロススイッチZ-30経由でミュージカルフィデリティのX-PREをプリアンプとし、自作2A3プッシュプルパワーアンプをロイネ音響研究所のアルニコマグネットを組み込んだ自作バスレフエンクロージャーに入れたものにつないでいます。真空管は良玉がなくなり、半分は中国製になりました。

ラインケーブル、スピーカーケーブルはアクロテック、電源ケーブルは極太タイプです。

NCF Booster-Braceの効果

防音室の3相電源は、ホスピタルグレードの電源コンセントから、6口電源ボックスを介して接続しています。NCF Booster-Braceをこのボックスに設置して、6口のうち2口に本機を装着してUSB



DACやプレーヤー使用して試聴しました。

一聴して音が変わったことがわかります。使用前も真空管とアルニコ特有のスピードが速く、かつ柔らかい音でしたが、音場の定位が主観では鋭角15°ぐらいで、刺さる音は刺さってましたが、本機を装着すると、感覚で音場の定位が30°に広がり、ゆったりとしました。それには不足はなく、少し音が丸くなったぐらいで、十分に音は刺さります。むしろ雑味が消えて、解像度には変わりがないまま分離感が増して、それぞれの楽器やヴォーカルの音が今まで以上に際立ち、これまでも聴こえていた小さな音が、きっちり独立して聴こえるようになりました。

NCFという素材は振動を吸収するだけでなく、静電気を抑えるとのことですが、静電気抑制効果がここまで効くとは正直驚きました。

さらに音楽ソースを変えて試聴しましたが、高音の抜けが良くなり、音場の立体感が増していることに気がきました。それぞれの楽器の独立性が高まることで、演奏中の場をよりイメージしやすい印象です。音圧が少し大人しくなった感じでしたが、ボリュームを上げる必要はなく、立体感の高まりによって音の認識が容易になりました。結果として雑味が消えたことによる抜けのよさとあまって、古いオーディオシステムでも、音楽を楽しむ喜びをまだ新しく味わえることを改めて感じました。SACDやハイレゾソースに切り替わったとき以来の驚きでした。

この素晴らしい経験を得られる機会を与えていただき、まことにありがとうございました。NCF Booster-Braceも欲しくなりました。次に壁のコンセントを変える機会があれば、GTX-D-NCFに交換しようと思っています。



6口電源ボックスの中央2口に本機を使用



自作の2A3プッシュプルパワーアンプ